会員だより

○大堀ケイ　14年卒

昭和十四年と言いますと六十年前になります。私は喜寿を迎えました。うその様な本当の年で、気持だけは若いつもりでも自分の姿を見るとがっくり。本当の自分を思い知らされて居ります。

六十五才から始めた洋裁を週一回習い始めて十二年目かな。孫の様な娘の年齢程の級友と今はボケ防止のつもりで、学校へ通っています。

悩みながら（思う様にゆかず）これでも頭の体操かな、なんて思って居ります。

○田口仁子　18年卒

卒業の日から五十五年も経ってしまいました。

時計台やオセンチ山、閣に流れる沈丁花の香りや手足の凍かんだ雪の夜、私達は自由で真摯なあの第六の心で、環境などに負けず生きております。

同窓会会長様や、ご協力の皆様に心より感謝申上げます。どうぞ皆様くれぐれもお体お大切に。

○用瀬静子　18年卒

平成十一年には七十周年記念式典を開催されますとか。お日出度うございます。母校に対する愛着はいっぱいあるのに、毎年クラス会を楽しむのに、同窓会には欠席という方が大部分とか、これはどういう事なのか、考えてみましょう。

○横山とみ子　19年卒

平成十一年記念式典には、必ず出席させていただこうと思っております。皆様も御健康には御留意の上、頑張って下さいませ。

"ともがきに　五十余年の月日　今あらわ"

○平田ツネ　20年卒

私達は戦争最中の卒業で、戦災で亡くなられた方、又戦災で住所がわからない方が多いのですが、現在10名は連絡がとれ、一年一回クラス会をしております。今年のクラス会で四月の第四木曜日と日を決めました。

○神保光江　27年卒

六十周年記念には出席させて頂きましたが、あれからもう十年近くになるとは。全く月日のたつのは早いものであると痛感させられます。今迄はどうにか健康には自信がありましたが、これからはどうなる事か自信が持てません。来年元気でしたら七十周年記念に出席したいものです。運営は大変でしょうが、何分宜しくお願い致します。

○杵渕八重子　27年卒

前・現会長、幹事のみな様のお陰で、ともかきを楽しく読ませて頂いております。五年程前からスキーの一級を目指していますが、このままあの世への夢となりそうです。

○長尾てる子　23年卒

「ともかき」楽しみに待って居ります。いつも御世話様でございます。御盛会をお祈り申し、皆様の御健康と御発展を祈り上げます。

"かるの子の　一人歩きの　運河かな"

○大塚英祐　29年卒

毎年のことながら、今年もご苦労さまです。

私はまだ会社勤めから抜け出せずにいます。同窓会の日はあいにく振替出勤日のため、欠席します。

今度ともよろしくお願いします。

○宍戸隆子　29年卒

どこからともなく「第九」が聞こえて来る季節になりますと、二年生の時、日比谷公会堂で「小鳥はさえずり、林に野辺に」と歌った日が、なつかしく想い出されます。そして新聞に、山根銀二さんの批評が載ったことも。

○鶴園江　36年卒

ともかき、楽しく読ませていただきました。

総会（東京フォーラムに出席）には参加出来ませんが、七十周年記念式典には参加したいと思って居ります。十一・十四（土）同期会が七年振りに行われます。皆様にもお声かけて、36年卒業生とこぞって参加出来たらと。いつもお世話ありがとうございます。

三田高生で思い出すこと

サン企画代表取締役社長
（元㈱ラジオ経済通信社）　坂本善次郎

昭和三十三年頃のことだったと思いますが、私の学友で朝日新聞本社社会部記者の小林君の書いた記事が、三田高校生の知るところとなり、後日美談として伝えられました。

東京都下、青ヶ島に台風が来襲し、その影響で海が荒れ、定期船が接岸できない日が続き、学用品が不足して授業に支障をきたしているとのことでした。そのことを知った三田高の学生達が、学用品を用意し朝日新聞社に届けた。早速ヘリを飛ばして空中投下され、両校が友情で結ばれたということでした。更にそのことが、ニッポン放送「歌声は消えず」いすず自動車提供の番組の中で三十分のドラマとして放送され、反響を呼びました。

その後、総務担当者が三田高校を訪ね、アルバイト学生をお願いしてきました。程なくして、松尾先生の紹介状を持参した富川孝恭君を採用しました。彼は社員とよく協力し、放送会社の評判も良く、卒業まで働いてくれました。卒業後は僧籍に身を置き各方面で活躍されているようです。次に松尾先生は山口英男君を推薦してくれました。彼も富川君同様、良く働いてくれました。卒業後はこの業界に身を投じ㈱全国社で修業し、後に独立して㈱アルトを創業し活躍中です。

松尾先生には明朗な二人の成年を紹介して頂き、今日でも感謝しています。